

穂 学

平成29年度

広州日本人学校学校便り

[No. 12]

平成30年3月5日(月)

発行責任者 教頭 渡邊美佐子

卒業生にとっての「ふるさと」とは

校長 丸本 互

ふるさと

作詞／高野辰之

作曲／岡野貞一

兔追いし かの山

如何にいます 父母

志を果たして

小鮒釣りし かの川

恙無しや 友垣

いつの日にか 帰らん

夢は今もめぐりて

雨に風につけても

山はあおきふるさと

忘れがたき ふるさと

思い出ずる ふるさと

水は清き ふるさと

私の好きな歌の一つに「ふるさと」という唱歌があります。子どもの頃育った町や村を懐かしく思い起こすこの歌を聴くと、思わず涙がこぼれそうになってきます。子どもの頃に遊んだ山や川については鮮明に覚えているものです。私の「ふるさと」は、神奈川県横浜市にある「日吉」という所です。海外で生活しているこの数年以外は、ずっと「日吉」で生活してきましたので、今まで、この歌詞にあるように遠く遠くの場所から思い起こす所ではありませんでした。今広州にいても、50年以上も前の「日吉」の景色が、そして一緒に遊び回った友のことが本当に昨日のここのように思い起こされます。

室生犀星という石川県金沢出身の詩人の有名な詩の中に、「ふるさとは遠きにありて思ふもの・・・」という一節があります。遠く故郷を離れ、苦しい思いをしていますが、常に心の中にある「ふるさと」を思い、涙しながら力強く頑張っていこうという思いを詩に表したものです。そのように「ふるさと」とは、ずっと心の中に残っていく永遠の場所なのかもしれません。

さて、小学部6年生、中学部3年生にとってははいよいよ卒業の月を迎えました。広州日本人学校で大変多くのことを経験してきたことでしょうか。その中には、楽しいことばかりではなく、苦しかったことやつらかったことなど数多くの出来事があったことと思います。今は、納得できないと思えるようなことも、何年後、あるいは何十年後かに思い起こしてみると、「ああ、そうだったんだ。」と、冷静に納得して振り返ることができることも数多くあるのではないのでしょうか。

また、広州で過ごした数々の思い出や出来事も、懐かしい思い出として心の奥底に残っていくことと思います。卒業生にとって、広州は「ふるさと」です。この「まち」でこの「学校」で過ごしたことを誇りに思って卒業して行ってほしいと思います。広州日本人学校は、みなさんの母校です。いつでも懐かしく思い出し、大人になってからもう一度戻って来たいと思える場所でありたいと願っています。

これからの長い人生の中で、私のように「ふるさと」でそのままずっと過ごす人もいるでしょうが、遠く離れた場所で生活する人もいるでしょう。そんな時、「ふるさと」の歌を口ずさんでください。きっと生まれ育った町と共に、数年間過ごした広州日本人学校での素晴らしい思い出が、心いっぱい蘇ってくると思います。新しい場所で、自分の目標に向かって頑張っていく卒業生を、ずっと応援していきたいと思います。

「ふるさと」を大切に、頑張れ！広州日本人学校の卒業生の皆さん。

6年生を送る会

2月28日の5校時、小学部では6年生を送る会が行われました。どの学年の発表も、6年生へ「ありがとう」の感謝の気持ちが込められており、6年生はお礼としてコントと合唱を披露。心温まる素敵な時間を共に過ごすことができました。

